

静岡英和学院大学 英和ユニバース（学報）

EIWA UNIVERSE

過去最高の就職率！これが本学のサポート☆



過去最高の就職率に就職活動の後ろ倒し—— 今回、何かと話題の多いキャリア支援課にお邪魔し、話を伺ってきました。就職活動の最前線では今何が起きているのか？本学の秘密に迫ります！

2014年度の就職を振り返って

安達：2014年度卒業生の就職状況は、どうでしたか？

鈴木：就職を希望する卒業生の就職率は、人間社会学科が96.2%、コミュニケーション学科が100%、現代コミュニケーション学科が91.7%、食物学科が100%です。ほとんどの学科が過去最高の就職率となりました。

安達：過去最高の就職率となった要因は？

鈴木：教員とキャリア支援課の連携が強化され、個々の学生の状況把握がスムーズに出来たことが大きいですね。学生の状況把握により、それぞれが必要とする支援の提供や個別の求人紹介が円滑にでき、内定に繋がったケースが多くありました。加えて雇用環境の回復により、求人が増えたことで、高い就職率を達成出来たと考えます。

就職活動スケジュールの変更と対策

安達：今年度の大学4年生・短大2年生から就職活動の情報解禁が3ヶ月後ろ倒しになりました。このスケジュール変更に対して、どのような対応をしているのでしょうか。

松本：就職活動スケジュールの後ろ倒しにより、就職活動期間が短くなり、準備期間が長くなります。この準備期間をどれだけ有効に活用できるかが、内定を得るための大きな鍵です。本学では学生が準備期間を有意義に使い、就職活動に自信を持って乗り出していくよう様々な取り組みを行っています。

安達：具体的にはどのような取り組みですか？

松本：代表的な取り組みの1つが「インターンシップの推進」です。企業・団体等における職場体験を通して、自らが働くことに対する意識の醸成を図ります。研修先についても本学の学生を優先的に受け入れて頂ける「特定研修先」を開拓しています。さらに、大学では「特定研修先」に応募する学生にエントリーシートの提出や面接選考などを義務付けています。就職活動本番で求められる選考の流れをインターンシップ応募時に経験することで、就職活動への意識を高めていきます。

資格・検定の取得を

松本：その他にも「秘書検定」など多くの資格・検定の取得を推進しています。その中でも「秘書検定」は、秘書を目指す人が取得するものと思われるがちですが、社会人として必要となるマナーや接遇、ビジネスの場で使用する基礎的な知識や用語を学ぶため、将来どんな仕事についても役立ちます。性別に関係なく低学年から取得を推奨し、在学中から社会人として必要な力の養成に努めています。



目次

- 1-3. キャリア支援課より
- 3. 宗教委員会より
- 4. 学長あいさつ
- 5. 学務課より
- 5. 留学生センターより
- 6. 学科NEWS(大学)
- 7. 学科NEWS(食物)
- 7. 後援会より
- 8. 学科NEWS(現コミ)
- 8. ボランティアセンターより

就職活動中の学生への支援

安達：現在、多くの学生が就職活動を行っていると思いますが、活動中の学生に対する支援について教えてください。

鷺山：活動中の学生には、履歴書などの書類添削、面接指導や希望求人の探し方などの就職活動に関する個別相談を行っています。いずれも予約制でたっぷりと時間を取り対応していますので、積極的に活用してほしいですね。また、1月から月1回「履歴書・エントリーシート講座」、「模擬面接・グループディスカッション講座」を開催しています。8月～10月にも「模擬面接・グループディスカッション講座」を開催しますので、学生に参加を呼びかけています。

安達：就職活動中の学生も様々な疑問や悩みを抱えると思いますので、積極的にキャリア支援課を活用して、就職活動を乗り切って欲しいですね。



安達：就職活動中の学生が多くいる一方、なかなか就職活動を始められないという学生もいると思います。そのような学生はどんな支援を利用すればよいのでしょうか。



雨宮：まずは、個別相談を利用してほしいですね。就職活動に一步を踏み出せない学生は「何をしたらよいかわからない」というケースが多いです。今年度は就職活動スケジュールの後ろ倒しで活動期間が短くなつたため、就職活動をせず立ち止まることによるリスクが例年より高くなっています。一人で悩まず、キャリア支援課を利用し、一步を踏み出してほしいと考えます。

安達：一人では不安も多いと思いますが、キャリア支援課を身近な存在として、相談するところから始めてほしいですね。

夏休みの過ごし方が大事！

安達：大学4年生、短大2年生の支援についてお伺いしましたが、これから就職活動に向け準備を進める大学3年生・短大1年生への支援についても教えてください。

松本：大学3年生は、4月から毎週月曜日5時限目に、短大生は10月から毎週木曜5時限目に「キャリア支援・就職支援講座（基礎講座）」を開講します。就職活動に必須となる内容を1つ1つ着実に身に着けていくステップ式の講座です。

松本：今年度からは、大短合同で7月16日（木）5時限目に「内定するための夏休みの過ごし方」と題し、夏休みを使い就職活動を有利に進める技を会得する講座を追加しました。夏休みをどう過ごすかが、今後の就職活動に大きな影響を与えます。この講座に参加して、効果的な夏休みの過ごし方について学ぶことは重要です。

保護者にできること

安達：大学の行う支援について色々お伺いしてきましたが、保護者からのサポートも就職活動には重要なだと思います。いかがでしょうか。

鷺山：保護者のサポートは大変重要ですね。学生にとって保護者は最も身近な社会人であり相談相手です。就職活動は決して簡単なものではありませんので、大学とご家庭の両方から学生を支えていくのが理想です。

安達：具体的にはどのようにサポートしていくべきでしようか。

鷺山：適切なアドバイスを行うためには、現在の就職活動環境や状況を正しく理解して頂くことが不可欠です。保護者世代が経験した就職活動と現在の就

職活動は、社会・経済状況や活動・選考方法に大きな違いがあります。その違いや本学の就職支援についてご説明する機会として、後期キャリア支援・就職支援講座講座開始前の9月5日（土）と就職活動開始直前の2月6日（土）に、大学3年生、短大1年生の保護者を対象とした「保護者向けガイダンス」を開催します。このガイダンスに参加して頂き、もっとも身近で就職活動を支える存在として学生をサポート頂きたいと思います。

安達：出来るだけ多くの保護者の方にお越し頂きたいですね。

鷺山：そうですね。7月にご案内を郵送しますので、ぜひお申し込み頂きたいと思います。

安達：ありがとうございました。

2015年新入生も「安心して行きなさい」～宗教委員会～

賀川豊彦は自分が創立した平和学園で生徒達に「心の平和」と「家庭の平和」と「生活の平和」と「世界（全人類）の平和」の「四つの平和」を説いたそうです。キリスト教学校の良さは聖書の説くところの「心の平和」を学生たちに与えることではないかと思います。さて、その心の平和を得られるところはなんと言っても礼拝にあります、静岡英和学院大学の新入生達は4月になってから入学式、始業礼拝、毎週水曜日の礼拝、そしてステューデント・リトリートでの礼拝と立て続けに経験します。これらの礼拝を通して、不安を抱えている学生が少しでも心の安心が得られるようにと願っています。礼拝は開学以来、行われていますが新館五階の講堂にて毎週水曜日10時半から始まります。今年度は4月3日から始まり、6月3日現在、すでに9回の礼拝が行われました。特に4月15日にはイースター（復活祭）の礼拝が行われ、礼拝後にはお菓子入りのイースターエッグ400個を上級生有志が配ってくれました。毎回の礼拝は聖書の話を聞き、オルガンに合わせて讃美歌を歌い、また「主の祈り」を全員で祈り、静かに自分を振り返り、心の平和を得られる貴重な時間となっています。



今年のステューデント・リトリートは4月11日（土）から13日（月）まで短大、大学それぞれ一泊二日の日程で「愛」の主題の下、天城山荘にて行われました。天城山荘はキリスト教の施設で日常の喧噪から解き放たれて静寂でゆったりとした気分になれます。バスで東静岡駅から天城山荘に着き、すぐに食堂に移動して昼食をとり、その後、リトリートのプログラムが始まりました。施設には大チャペルや中チャペルがありますが、大チャペルにて開会礼拝が行

われた後、リトリート全体のスケジュールの説明と引率教員、引率上級生の簡単な自己紹介がありました。その後、約40分、上級生による「自分の経験を基にした1年生にとっては本当に役に立つ大学生活へのアドバイス」がありました。今年は、大学は2年生の男子4名と女子4名、そして短大は2年生の4名が引率してくれ、1年生のためによく奉仕してくれました。先生を交えての学科別話し合いや自由時間など楽しい時間を過ごした後、夕食となりました。食事の配膳も、食前のお祈りも、食後の「ごちそうさま」も和気藹々になっていきました。19時から大チャペルにてキャンドルサービスを行いました。一人一人、キャンドルを持ち、静かに礼拝の中に身をおきつつ、この一日を振り返ることができました。その後は体育館で汗を流す者、仲良くなった者同士、また先生や上級生と語り合う者、・・・今回は特に四大生の方は、上級生による「ロックで素麺」というイベント企画があり、そのイベントに参加する者・・・など一年生は次第に不安な気持ちがほどけていったよう

でした。翌日は閉会礼拝で天城山荘を後にし、伊豆三津シーパラダイスへ行き、全てのプログラムを無事に終えることができました。後日、チャペルにて「リトリートを振り返って」と題して13人の学生に話をもらいましたが、皆、これから的生活に不安よりも期待が大きくなつたようでした。静岡英和学院大学で学ぶ一人一人の学生が単なる無事平穏だけでなく心と身体と生活すべてにおける豊かさを味わいながら、生き生きと大学生活を送つていけますように祈ります。（宗教部 伊勢田奈緒）



豊かな学生生活を

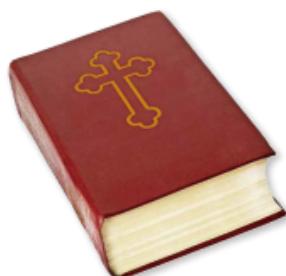
自ら問題を発見し、自ら解決。
それが大学生活の要諦

学長 武藤 元昭



今年の気候は甚だ不安定ですが、英和学院大学は例年通りの活気の中で動き出しているようです。5月の礼拝で、リトリート参加の感想を13人の1年生が語ってくれました。その中で共通していたのは、「友達が出来て良かった」ということでした。改めて、大学での友人関係の大切さということを感じました。2年間或いは4年間の学生生活の中で良い友人を得ることは、一生の宝となります。この点は、入学式を初め様々な機会に申してきたつもりです。友人関係を通じてお互いを高め合って下さい。

キャリアセンターの尽力もあって、今年の卒業生の就職率は100%に近い数字でした。今年の就職戦線も早くも終盤にさしかかってきたようですが、まだ決まっていない人も諦めず粘り強く活動して下さい。何より自分自身の意思をしっかりと持つことが大切です。勿論、1回の就職が全てではありませんが、少なくとも、就職を通じて社会の発展に寄与するという気概を持つことが、就職への意欲を高めることになるでしょう。



学院聖句

心を尽くし、精神を尽くし、
力を尽くし、思いを尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい。
また、隣人を自分のように愛しなさい。
新約聖書「ルカによる福音書」10章27節

扱（さて）、このところ政治の面でも大きな動きがあるようです。集団的自衛権を始め、憲法に関わる問題が様々議論の対象になっています。若い皆さんの将来に大きな影響を及ぼし兼ねない事柄だと私には思われます。こうした事に関する是非の判断は各々異なると思いますが、少なくとも、事柄の内容はしっかりと把握しておく責任は大学生諸君にはあると思います。他人任せにして後で知らなかつたということにはならないようにして下さい。

これから夏休みを迎えます。夏休みの計画は出来ていますか。この期間の過ごし方は、学年によって大きく異なると思います。大学に入つて最初の長期休暇を迎える学年もあれば、学生生活最後の休みという学年もあり、それぞれに計画を立てていることでしょう。アルバイトだけに終わる休みは、あまり有効とは言えないかも知れません。どの学年であれ、社会人になつたらこんな休みは得られません。良い休みを過ごして下さい。休み明けには充実感に溢れた姿が見られるように期待しています。

近頃スマホの扱いが問題になっています。信州大学の入学式での「スマホやめますか。それとも信大生やめますか」という学長の式辞が話題になりました。勿論、これは極端な話ですが、現代のスマホ依存現象を端的に示した事象ではあります。情報を得るのは悪いことではありません。それが自分の生活の意欲に寄与するか否かが問われるのではないかと思うのです。大学では自ら問題を発見し、自ら解決しようとする姿勢が求められます。それが大学生活の要諦だと思います。情報を豊富に集めたら、それをどう取捨選択し、己れの考えとして纏めるかが求められます。受身一方にならないよう、うまく情報を利用して下さい。豊かな学生生活を続けることを期待しています。



前期定期試験が近づいてまいりました！～学務課～

前期定期試験は、7月28日（火）～8月3日（月）までの一週間です。記述式の試験や実技試験があります。この期間の前後を締切としたレポートを課している科目もあります。日頃行われる小テストで評価される科目や、試験のない科目もあります。試験の曜日や時限、試験室が授業とは異なっている場合があります。試験室が2か所、3か所に分割されている科目があります。7月中旬に新館1階ラウンジに掲出される定期試験時間割を必ず確認してください。自分の試験日程は自分で管理してください。

☆毎年、試験日や試験時間を間違える学生がいますが、カン違いは追試験の対象外です。☆試験期間以外に行われる小テスト、中間テストは定期試験ではないので追試験の対象外です。それらを欠席した場合は教員に申し出てください。☆就職試験は追試験の対象ですが、就職活動（説明会参加、会社訪問等）は追試験の対象外です。☆遅延証明書のない公共交通機関の遅

延は追試験の対象外です。必ず遅延証明書を貰ってきて手続きをしてください。☆寝坊や自転車のパンクは追試験の対象外です。☆「寝坊したので親の車で送ってもらったら道路が渋滞していた」も追試験の対象外です。☆気分が悪い、頭が痛いだけでは追試験の対象外です。必ず医師の診断書を貰ってきて手続きをしてください。☆追試験の対象となる要件は履修要項（大学p. 12、短大p. 11）を参照してください。

定期試験を欠席し、追試験を希望する場合

は、当該試験の開始時間までに、必ず学務課へ連絡し学務課の指示に従ってください。担当教員に直接お願いする学生がいますが、学務課への連絡が前提です。学務課に事前連絡のない欠席は、全て試験放棄と見做します。重大事故や重病、近親者の忌引き等で開始時間前までに連絡できなかった場合も速やかに連絡してください。

（連絡先）新館2階 学務課へ直接来室、または 電話（054-264-8874）（学務課 山縣）



留学生の活動を支援します！～留学生センター～

・新入留学生との交流会開催

4月29日（水）新館棟1階のラウンジで新入留学生との交流会を開催しました。新入生は上級生と学生生活などについて話し合い、交流を深めました。会場ではネパール震災支援のための募金箱を設置し、多くの学生、教職員の方々のご協力をいただきました。ありがとうございました。



・新入留学生との面談会開催

5月20日（水）、21日（木）の二日間、留学生委員会の先生方と新入留学生との面談会を開催しました。先生方から学習の仕方、単位の修得、レポートの作成方法 等々、役に立つお話をたくさん聞けて、新入留学生にとってとても有意義な会になりました。

・日本語能力試験対策講座スタート

留学生の日本語学習及び資格の取得を支援するため、日本語能力試験対策講座がスタートしました（4月20日から毎週月曜日）。中国、ミャンマー、ベトナムなどの留学生が講義に参加し、試験合格を目指して勉学に励んでいます。



・留学生支援！秘書検定講座対策スタート

秘書検定に挑戦したい留学生の要望を受け、秘書検定対策講座を今年度より始めました（4月24日から毎週金曜日）。講座を通じて日本のマナーや常識を身につけてほしいと思います。



「静岡英和学院大学留学生書道作品展」開催

4月23日（木）、24日（金）の二日間、留学生習字作品書写会を開催しました。今回の書写会は、5月1日（金）から5月11日（月）までの間、静岡県教育会館で開催された「静岡県大学書道作品展」に、本学の留学生の習字作品を出展するために企画したものです。留学生たちは習字の齊名先生のご指導を受けながら、積極的に作品作りに取り組んでいました。制作された作品は静岡県教育会館ギャラリーに展示され、多くの来館者の方から温かいお言葉をいただき、ご好評をいただきました。



・浙江省短期留学応援！中国語講座スタート

静岡県と中国浙江省との友好交流事業において、浙江省への短期留学を希望する日本人学生を支援するため、中国語講座を今年度より始めました（5月22日から8月初旬まで毎週金曜日）。中国語に取り組むことで浙江省の方々と友好交流を深めていただきたいです。



・英語勉強会スタート

英語を上達したい本学の学生を支援するため、英語勉強会がスタートしました（4月22日から毎週水曜日）。今年度も実りある学習ができるよう応援していきます。（留セン 鈴木）



～地域コラボ！今日の授業は薦の細道で！～

『昔、梅林院という寺に血の味を覚え鬼になってしまった坊主がいました。鬼は宇津ノ谷峠を根城に旅人を襲い、人々を恐怖させました。……』

—これは、5月16日に開催されたオープンキャンパスで、日本古典文学ゼミに所属している4年生の一人が発表した研究内容の一節です。プロジェクターを使用するために明かりを落とし、初夏の異例な真夏日のために冷房を効かせた教室で、伝承話の不気味さが伝わってきます。



—日本古典文学ゼミは、昨年度「一般社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が主催する「ゼミ学生地域貢献推進事業」の助成を得て「地域の伝承文化に関する研究—しづお

か昔話の系譜—」をテーマに、静岡県に伝わるさまざまな伝承について調査を行いました。ゼミ生5人は、それぞれの出身地や関心を持つ地域を研究拠点にして、そこに古くから伝わる伝承を文献分析によって把握し、地元の方々と交流しながらアンケート調査や聞き取り調査などを通して理解を深めてきました。さらに、それらの伝承を大学生としての視点で捉えなおし、子ども向けに書き直すことにもチャレンジしました。

—研究調査は基本的に一人ひとりが各自の課題に取り組んで解決していましたが、アンケート調査のような人員と時間を要するものは、ゼミ生全員がチームを組んで行っていました。例えば、昨年8月13日に焼津で行つた荒祭に関する意識調査は、全員が焼津へ向かって、炎天下にも関わらず焼津の町を三時間ほど歩きながら、延べ53人の祭り参加者に対してアンケートを取

りました。

—1年をかけて取り組んできた研究の成果を公表すべく、学内と学外で計5回の発表会を行いました。特に藤枝市の尽力を得て今年2月8日に岡部宿柏屋歴史資料館で開催した「成果



発表&伝承朗読会」には、地元の方々が多く来場し、寒冬の冷たい空気で凍るような身を温めくださいました。

《……地蔵菩薩が坊主に姿を変えて鬼を退治し、人々に十団子をお守りとして作るように伝えました。この糸で貫いた小さな団子を食べると、万病が癒えると言われています。》

—ゼミ生たちも研究調査を通じて、静岡という地域の特有なエネルギーを吸収し、心身ともに健康的になりさらに成長していくでしょう。（人間社学科 蔡）

大学4年生向け 福祉の仕事ガイダンス

コミュニケーション福学科の学生の多くが保育現場を含めた福祉現場に就職します。今回、静岡県社会福祉人材センターの寺澤友裕氏を講師に招き、4年生を対象とした「福祉の仕事ガイダンス」を開催しました。ガイダンスでは、人材センターの利用方法と合わせて、福祉現場の求人動向、組織における福祉職員のキャリアパスなどを説明していただきました。また、就職先を選ぶ際には求人票だけで判断するのではなく、実際に施設を見学したり、職場体験を行うことが重要といった助言もいただきました。参加した4年生の真剣にメモを取る姿は大変印象的でした。まだまだ就職活動は続きますが、今回学んだ内容を糧に、自らが描く将来の自分に向かって一歩ずつ進んでいってほしいと思います。（コミ福 岡部）



子育てばばまま広場 『みんなであちょぼ』

本学で『子育て親子ひろばあちょぼ』の取り組みを5年間実施し、気づいたことがあります。それは、学生たちが、先輩、同学年、後輩と意識しながら保育実践を通してそれぞれの関わりを深めてきたことです。

—親子の関わりで迷った時には、先輩から助言を受けてその方法を学び取っていきます。次には、自分が教わったように後輩たちに支援方法を伝えていくというような、社会人になるための基礎的能力を培い成長していく姿も見られました。

—今年度は『子育てばばまま広場みんなであちょぼ』と名称も変更し、内容もリニューアルしました。学生たちだけが運営するのではなく、取り組みに子育てする父母に積極的に『みんなであちょぼ』に参加してもらい、静岡県の子育て支援活動を

より活性化したいと願っています。写真は学生たちが静岡県の桧で作成した玩具です。（コミ福 永田）



『はぴねす☆EIWAカレッジ』

2011年度から始まった「はぴねす☆EIWAカレッジ」は、主に知的に障がいを持たれた方を対象に、本学教員による様々な講座の開催を通して学びの機会の提供を行ってきました。5回目となる今年度は「Welcome to シズオカ～今日からはじまるおもてなし～」というテーマで、7月11日（土）崔瑛（チェ・ヨン）先生、11月21日（土）リチャード・ウッドワード先生、11月21日（土）玉井紀子先生がそれぞれ講座をご担当されます。講座での学びを通して障がいを持たれた方が豊かな生活を自ら創造していかれることをスタッフ一同心から願っております。（コミ福 高阪）



食でリフレッシュ！in 梅ヶ島京都研修PartⅡ

2015年2月25～26日、4年目を迎えた未来経営戦略プロジェクト「食でリフレッシュ！in 梅ヶ島 京都研修PartⅡ」を実施しました。フィールドは、古き良きものを次世代に伝えながら常に新しいものを取り入れていく、チャレンジ精神旺盛な「古都 京都」を選択しました。参加者は、梅ヶ島学区自治会連合会（2名）、梅ヶ島温郷旅館関係者（7名）、道の駅関係者（2名）、本学学生（11名）、教員（8名）、非常勤講師（2名）および卒業生（1名）、他大学教員（2名）といった多様なメンバーで構成されており、右記の行程で研修を行いました。



栄養たっぷり！
京の伝統野菜です。



ドキドキの
プレゼンテーション



食塩・醤油・味噌を
使わない京懐石

key wordは「食」



学生の参加は、静岡県主催の和食給食コンテストへの応募を条件とし、宿泊所研修室にて、応募レシピのプレゼンテーションを行ないました。地域の方々や他大学の教員を前にしての発表は緊張感もありましたが、アドバイス、励まし等をいただき有意義に過ごしました。初年度からご協力いただいている懐石宿近又での「調味料（食塩・醤油・味噌）を使わない京懐石」では「食材の持つ潜在的な力とそれを最大限に引き出す技と感性」

を学びました。「食」を取り巻く音風景としての篠笛や、すぐき漬けの伝統技術、茶文化体験等限られた時間の中で、多様な立場の参加者同士が「食」をキーワードに交流することができました。参加者から「このような研修は、静岡英和だからこそ開催できると感じた。学生や地域にとって貴重な体験ので、是非今後も続けてほしい」との感想も寄せられました。今後も地域との「食の連携」を継続したいと考えています。（食物学科 前田）

2015年度の後援会が始まりました！

2015年度の後援会組織が決まり、7月15日には第1回後援会理事会が行われました。今年度役員の皆様、後援会事業へのご協力をよろしくお願ひいたします。今年度も例年通り冬にコンサートを予定しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。（後援会 安達）



研修スケジュール

<2月25日>

- ・直売所視察（じねんと市場）
- ・竹田農家訪問（村上正一氏圃場）
- ・茶文化研修と一字文字写経と武家式
—お茶席 体験（泉涌寺）
- ・篠笛講演（民の謡篠笛玲月流森田玲氏）
- ・ふりかえりの会

<2月26日>

- ・学生による「和食給食コンテスト」
—応募レシピのプレゼンテーション
(宿泊所白河院にて)



- ・里の駅大原視察
(大原アグリビジネス21)

- ・上賀茂農家訪問
(京の上賀茂すづき倶楽部会長宅)

- ・京料理研修「調味料を使わない京懐石」
(懐石宿近又)

- ・ふりかえりの会（研修を終えて）

食物学

よろしく
お願ひします



ネパール支援

ご存知のように、ネパールでは4月に大地震がありました。現代コミュニケーション学科にはネパールからの留学生が2人いますが、ボランティアのスタッフが彼らのために支援を呼びかけてくれました。2人からメッセージも届いています。



私はレグミ・アムリットです。2015年4月25日にネパール中部を震源とするマグニチュード7.8の大地震が発生しました。死者は1万人を超える、負傷者は2万2千人ほど、甚大な被害が確認されている状況です。

—さらに20万人の人が、家も何もなくして、大変だと思います。私の家も倒れました。私の家族は、今は親戚の家に住んでいます。

—いろいろな国の人たちが、救助のために

行っているのですが、まだ全てに行き渡らない場所もあって大変です。今も毎日毎日強い地震が来て、緊張しています。

—地震は大きな影響を及ぼしました。食料や衣服の支援が行き届いていないので、とても厳しい状況です。土砂崩れで家が流されて、とても危険な状況です。病気になる人も増えています。ぜひ、出来る範囲でのご支援をお願いいたします。

私はネパールから来たラムです。4月25日に発生した地震のことについて、私が知っていることを書きたいと思います。

—その日、ネパールの首都カトマンズから北西80キロメートル付近を震源とする、M7.8の地震が発生しました。1月以上経ちましたが、今までに死者はだいたい1万人を超え、負傷者は2万2

千人ぐらいだとニュースに出ています。

—私は負けない。ネパール地震の子供たちや負傷者には、自分たち一人ひとりで、できるだけ手をつないでいきたいと思っています。今後のネパールが元気を取り戻すように、お祈りしています。



(現コミ 柴田)

5月1日、ボランティアセンター学生スタッフの募金支援チームと留学生センターが共同でネパールの被災された方々及び留学生の被災されたご家族を支援するため、募金活動をお昼休みに行いました。本館入口付近と新館入口で行い、今回はネパールの留学生も募金活動に協力してくれました。善意ある方が募金をして下さり、65,000円が集まりました。前日には留学生センターでも募金活動を行い25,000円の募金が集められ、合わせて90,000円の募金となりました。



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会

